

# 適合性評価の仕組みの検討・準備

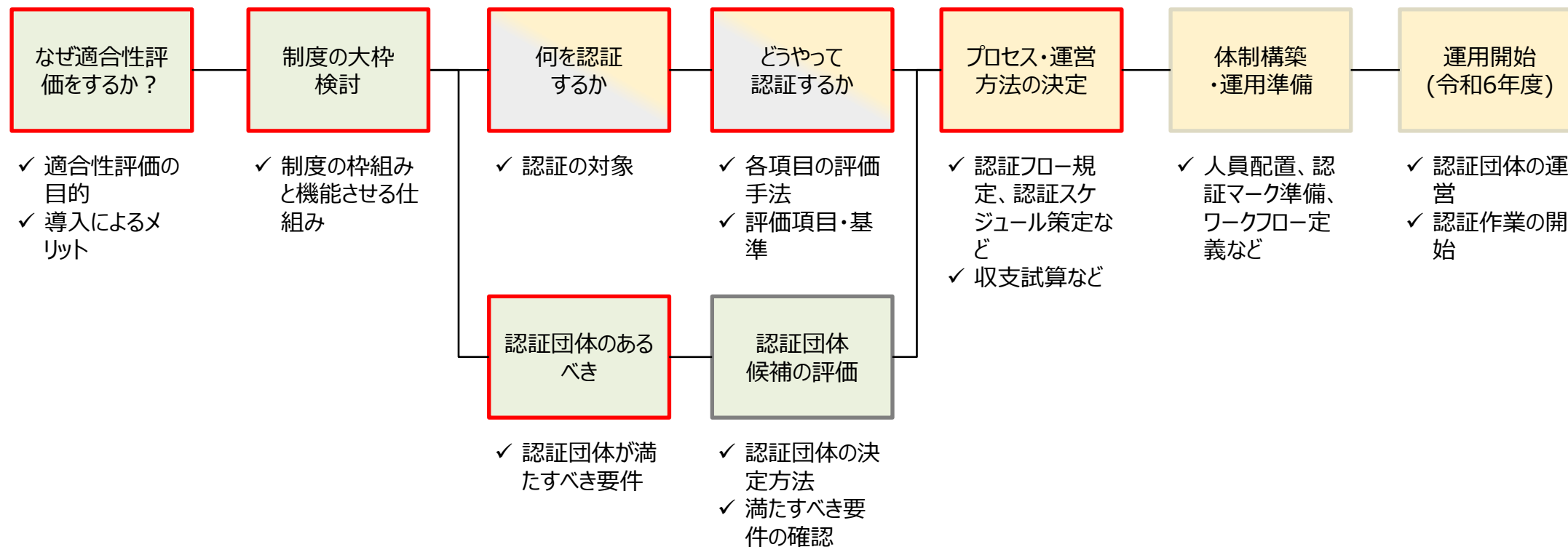
## 適合性評価の実施にむけた検討アプローチ

令和6年度中に適合性評価の実施を目指し、準備を進める

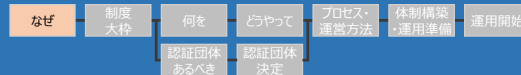
赤枠 本日の報告範囲

凡例：緑 本事業で検討

黄 認証団体がメインで検討



## なぜ適合性評価を実施するか



学習eポータル標準モデルが守られる仕組みを構築することで、エコシステムが機能し、豊かなデジタル学習環境の実現を目指す

### 目的

- ✓ 適合性評価の仕組み構築により、学習eポータル標準モデルをハブとした“信頼性”と“相互運用性”の高い**効率的なデジタル学習環境の整備を進める**ため
- ✓ 学習eポータル標準モデルに基づいて製品・サービスが制作・運営されているかを客観的に評価し、**製品・サービスの質を確保するため**
- ✓ 学校関係者が安心して**一定の質を担保した製品・サービスを選択・活用できる環境を整備**するため

## 適合性評価と通じて標準化が進むことによる各ステークホルダーのメリット

### 学校設置者

- ✓ **ニーズに合う製品やサービスの選択**
  - 自らのニーズに合ったデジタル学習環境を容易に認識・選択することが可能
- ✓ **データの蓄積と活用の容易化**
  - 標準化されたスタディ・ログの蓄積により、データ収集・分析の手間やコストが低減。データを活用した教育改善が容易に
- ✓ **維持管理の効率化**
  - アカウントの年次更新などの維持管理の手間の低減
- ✓ **競争環境の進展**
  - 適合性評価に合格した製品・サービスが増え、健全な競争を促進するエコシステムが進展することで、導入コストが低下

### 利用者（教員・児童生徒）

- ✓ **使い勝手の向上**
  - 適合性評価に合格した、データ標準や相互運用性に富む製品・サービスを組み合わせることで、一定の利便性・操作性が確保される
- ✓ **個々のニーズに合ったデジタル環境を構築可能に**
  - 教育機関や児童生徒個々の特性やニーズに応じて、最適なデジタル学習環境の構築が可能に

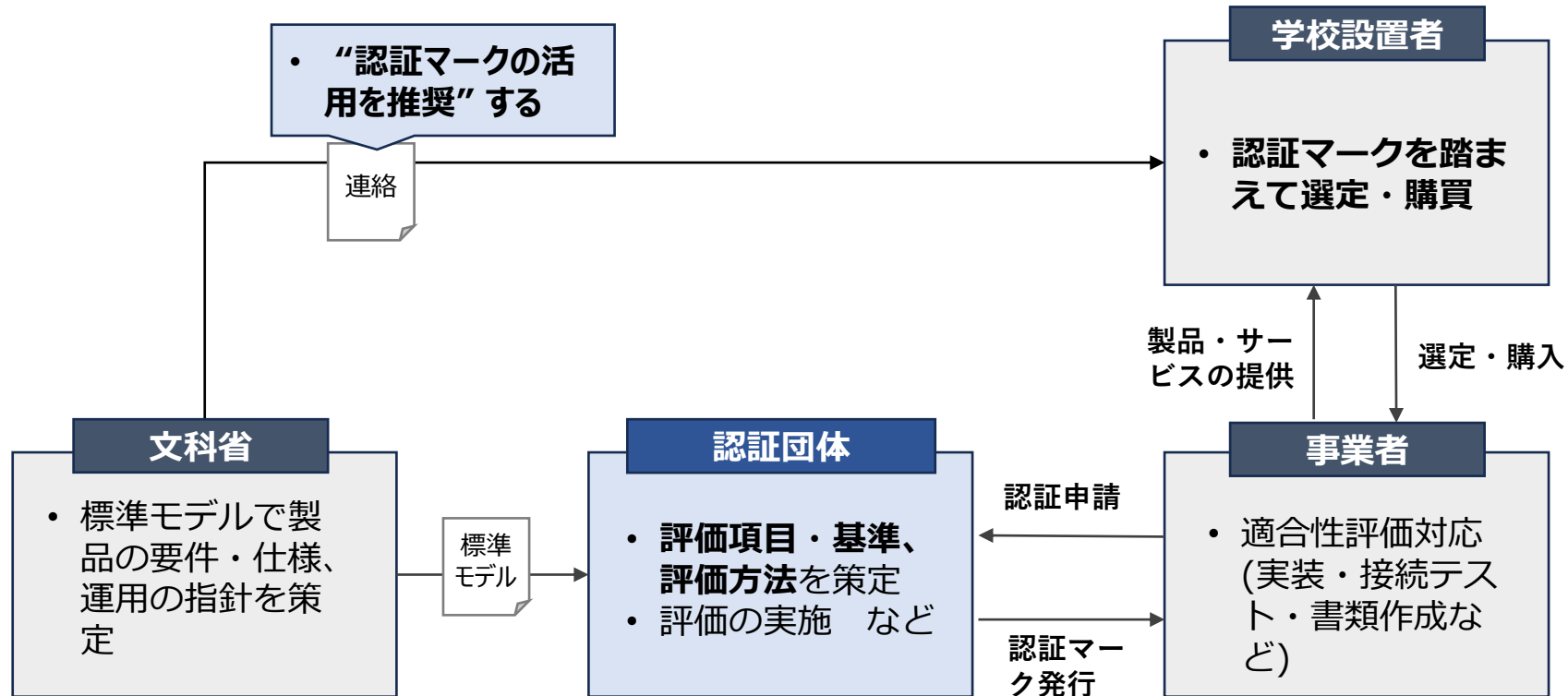
### 提供事業者

- ✓ **マーケットアクセスの拡大**
  - 認証を受けた自社の製品・サービスが学校設置者に認知されやすくなり、販売の拡大が期待できる
- ✓ **テストコストの削減**
  - 自社の製品・サービスと他社との連携に際して、標準モデルに従った開発により、開発が1度で済み、テストのコストも低減が期待できる

適合性評価の制度の大枠

標準モデルに基づく機能の実装や運用を実施できるかを評価する認証団体を設置。学校設置者に認証マークの活用を推奨する仕組みが考えられる

適合性評価の大枠



## 何を認証するか

認証の対象は標準モデルで規定する仕様・規格に基づき機能等を実装した製品・サービス、及び運用指針を遵守している製品・サービス

### 認証の対象

学習eポータル	学習ツール, 校務支援システム, LRSとの連携
校務支援システム	名簿情報の出力
学習ツール	学習eポータルからの呼び出しとスタディ・ログの出力
LRS	スタディ・ログの受け取りと保持と出力

に対して

## 各製品・サービス

の単位で認証する

各事業者は学習eポータル標準モデルの毎年の改定に合わせて都度認証をとることを想定

具体的な認証の方法やプロセスについては今後、認証団体が決定するが、例えば以下のようなことが考えられる

認証項目の種類

- 1 **技術的相互運用性**  
 ✓製品の技術的要件・仕様に関して、学習eポータル標準モデルの規定を踏まえているか
- 2 **運用ルール**  
 ✓学習eポータル標準モデルの運用の指針を踏まえているか

認証方法の例

- ▶ ✓接続テスト環境における、**申請者自身による接続テストの実施**と、その**結果データの確認**
- ▶ ✓学習eポータル標準モデルの**運用の指針に基づいた、評価基準を順守していることを申告**などで確認

認証後も学習eポータル標準モデルが守られているかフォローする仕組みも検討

## 認証団体のあるべきについて

認証制度を運営していくために、運営を担う組織が必要。組織が有すべき体制・機能等は以下の通りでどうか

### 必要な機能等

### 必要な体制等

#### 持続可能性

- ✓ 文科省との連携のもとで認証の仕組みを**持続的\***に運営できる体制
- ✓ **安定的な事務体制と経済基盤**

#### 中立公正性

- ✓ 文部科学省の委託事業で策定された**標準モデル**を適切に評価できる**専門性**
- ✓ 認証を受けたい**全ての事業者**が評価を受けられる体制
- ✓ 認証プロセスを**最大限透明化**すること
- ✓ 評価の基準や結果に対し、**関係者から疑義が呈された場合、適切に対応する機能**を有すること。また、その対応を**透明なプロセス**で行えること
- ✓ **利益を追求せず**、運営をスリム化すること

#### 効率性

- ✓ 事業者にとって**コスト・手間とも過度な負担**とならない手段で認証できること
- ✓ 認証する項目や方法を**必要なものに絞り、基準・リストを公表**するなど、**全ての事業者が知りうる**ことができるようにすること

#### 実質性・実効性

- ✓ **実際に機能する**ような**認証基準やプロセスを構築**できること
- ✓ 事業者が**標準モデルに基づく機能を実装**できているか**確認**できる**テストセンター**を提供できること

## 認証プロセスについての検討すべき点

認証プロセスについては、認証団体が運営のコストなどを考慮して案をまとめるとともに文科省（専門家会議）に確認を得る

### 検討すべき事項の例

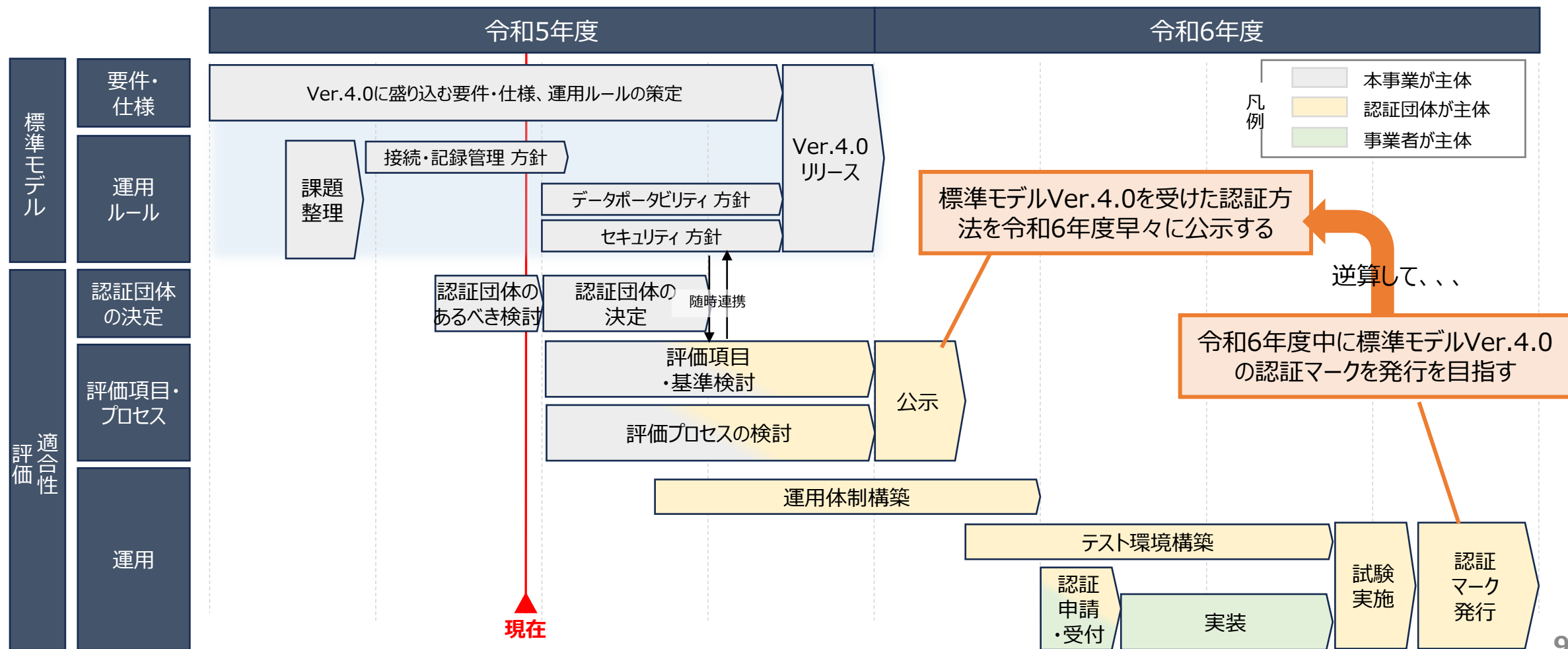
認証 プロセス	いつ？	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年間のうちどのタイミングで認証を受けれるか</li> </ul>
	どのように？	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認証の申請～完了までどのようなフローとなるか</li> <li>• どれくらい期間がかかるか</li> </ul>
	合否判定？	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 合否判定はどのようになされるか</li> <li>• 合格時の証明はどのようになされるか</li> </ul>
費用		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 申請にかかる費用はいくらか</li> <li>• 更新時に費用はかかるか</li> </ul>
頻度	更新頻度は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どのくらいの頻度で更新する必要があるか</li> <li>• 有効期限はどう考えるか</li> </ul>
	案内は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準モデルの更新等における案内をどうするか</li> </ul>

⋮



## 適合性評価に関するスケジュール (イメージ)

令和6年度中の適合性評価実施にむけて、認証団体を決定し準備を進める。以下は認証開始のスケジュールのイメージ。実際には認証団体が具体化する。



## 本日の報告を踏まえた当面の対応

- 本日の議論も踏まえ、黒枠部分を中心に認証制度の大枠や認証機関のあるべき姿を文部科学省がとりまとめ
- 認証制度の詳細については引き続き本事業や今後決定される認証団体において検討予定

- 凡例：
- 赤枠 本日の報告範囲
  - 黒枠 本事業で検討
  - 黄 認証団体がメインで検討

